

PIIA Knows

Public Interest Incorporated Association
KNOTS
Animals

Knots NEXT 'One World, One Life'

公益社団法人 Knots ノッツ・結び目

WEBサイト <http://knots.or.jp>

[今号のメッセージ]

九州保健福祉大学

臨床心理学部

教授 加藤謙介先生



【開催】2024年7月14日(日)~25日(月) 【会場】益城町総合体育館
【主催】公益社団法人KNOTS、NPO法人のびのび動物会、大分県動物福祉推進協議会、益城町動物愛護会



被災地で、ペット写真を撮って贈ること

公益社団法人Knots(結び目)は、「人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。

Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

「ここ(避難所)の良
い思い出になる」「こん
なにたくさんもらって。
仮設住宅の壁いっぱい
に貼らなきゃ」「つらい
おもいでも、写真のお
かげで大切なおもいで
に変えることができま
した」「クッキーは宝で
すよね。宝物。この子
のために頑張らなきゃ
なっていくのがあるん
ですよね」

私は、縁あって、熊
そのペットに関わるよ



本地震で大きな被害を
受けた益城町で、被災
された飼い主の方々と
そのペットに関わるよ

うになり、2度目の訪問
から現在まで7年以上、
ペットの写真を撮って贈
る活動を続けています。
これらの言葉は、その写
真に対して、飼い主の方々
から寄せられたものです。

当初は、私のような素
人が撮影したものに、何
か特別な意味があると
考えてもみませんでした。

しかし、避難所でペット写
真を受け取った飼い主の
方々は大変喜ばれ、その
数が100枚を超えたあたり
から、写真を前に、被災
した「自身とペットの「こ
れまで」と「これから」

を語ってくださるようにな
りました。この頃、関
係各位のご尽力で、避難
所内で「いぬネコ家族写
真展」を開催することが
でき、幸いにも避難者の
方々から好意的な評価を
いただきました。

うことがありました。こ
の「最後のペット写真」
を前に、飼い主の方々は
ともに震災を乗り越え
てきた。ペットへの愛と死
別の悲しみの言葉を述べ
られました。

「ペットの写真を撮つ
て、飼い主に贈る。こん
な他愛ないことが、被災
地では特別な意味を持
つようになりました。被
災地でのペット写真には、
災害で二層深く結ばれた
飼い主とペットの絆が写
し出されていたように感
じます。この街の方々と
ペットたちに、これから
もつつがない日々が続く
よう、切に願っています。

さらに歳月が過ぎ、復
興途上でペットが亡くな
り、残念ながら私の写真
が「遺影」になってしま